第３学年　　道徳科学習指導案

１　主題名　 意見が対立した時には　**B－１０相互理解、寛容**

２教材名　　日曜日の公園で　（出典：光村図書　きみがいちばんひかるとき）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

中学年の児童は、自他の立場や考え方、感じ方などの違いをおおむね理解できるようになるが、ともすると違いを受けとめられずに感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりすることも少なくない。望ましい人間関係を構築するためには、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見について、その背景にあるものは何かを考え、傾聴することができるようにすることが必要になる。自分の意見と相手の意見が違った時は、自分本位の考えになって相手の意見を聞こうとしなかったことが原因の場合もある。相手の意見が理解できないときに、自分が間違っていることもあるのではないかと思う謙虚さが、相手の意見を聞く寛容さにつながる。実体験や道徳の学習を通して、相手の意見を聞く寛容さを身に付けさせたい。

（２）児童の実態

　本学級では、週に一度学級全員で遊ぶ機会を設けており、交友関係も広まっている。仲間との関わりが増えている分、意見の衝突が起こることがある。教師が仲介役となり、互いの意見をしっかり聞いて整理することで解決する場合がほとんどである。相手の意見を聞き、相手の立場に立つことが、対人関係の問題解決に必要であることを学んでいる時期である。実際に児童の間で起こっている事と同じような設定の教材から、自分の意見を伝えるとはどういうことか、相手の意見を聞くとはどういうことかについて考えさせたい。

（３）教材について

主人公のぼくは、欲しかったゲーム機がようやく手に入り、日曜日に公園で友達と遊ぶことになる。そこにゲーム機をもっていないヨシキがやってきて、見ているだけでいいと言っていたが、ヨシキを気遣って、タクがみんなで走り回って遊ぼうといいだす。ゲームでもっとあそびたいぼくは納得ができず、タクと口論になる。最後に「なんでタクはぼくの意見を聞いてくれないのだろうか」という言葉で終わっている。この「なんで相手は話を聞いてくれないのか」と思った時が、自分中心で物事を考えている可能性があることと同時に、タクの伝え方がきびしいがゆえに「ぼく」がそのように感じたことにも気付かせたい。そして、自分だったらどの場面に戻ってどのように行動するかを両方の立場で考え、相手の意見を聞くタイミングや方法について考えさせたい。

（４）身近な問題として意識付けるために

授業前に「自分自身の過去の喧嘩」も振り返らせ、身近な問題であることを意識させる。そして、どのようにしてやり直すかを考えさせて、ロールプレイも行う。

４　本時の学習指導

（１）本時のねらい

友達と意見が衝突する場面について、自分本位な考え方が原因である場合を知り、相手の意見を聞きながら解決しようとする気持ちを高める。

（２）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動の流れ | 教師の支援と評価(◆) |
| １５  ２０  ４０  ４５ | １　教材を読む。  悪いのは「ぼく」ですか、タクですか？  ２　自分の意見をノートに書き、発表する。  ・タクが悪い。ヨシキが見てるだけでいいっているし、「ぼく」はようやくゲームができたんだから、「ぼく」のことを考えてあげるべき。  ・「ぼく」が悪い。自分の事しか考えていない。  ・喧嘩しているからどっちもわるい。  ぼくとタクは、それぞれ誰のことを中心に考えていますか？  ３　「なんでぼくの言うことを聞いてくれないんだ」と発言しているぼくは、相手の言うことを聞いていないことに気付く。  ・「ぼく」は自分のことを中心に考えている。  ・タクは、ヨシキのことを中心に考えている。でも、言い方がきつい。  あなたなら、どの場面に戻ってどんなことをやり直しますか？両方の立場で考えましょう。  ４　「ぼく」とタクのそれぞれの立場にたって、どのようにやり直すかをノートに書き、発表する。  ・タクが提案してきたときに、「あと１０分はさせてほしい。その後に遊ぼう」と言う。  ・あきてきたといわずに、「ヨシキとも遊びたいから、遊ぼう」という。  ５　本時を振り返る。  ・相手の意見も聞く  ・聞いてもらえる話し方をする。  ・相手の意見がきついと感じたら、それを伝える。  ・どちらも喜ぶ答えを出す。 | ・教材に興味をもたせるために「悪いのはぼくですか」という相談があったという状況を伝える。  ・自分自身の経験と重ねやすいように、事前にはばたきタイムで過去に「なんで僕の意見を聞いてもらえないのか」と思ったことを出し合わせる。  ・理由も書けるように時間を確保する。  ・意見の比較ができるように左右に分けて板書する。  ・自分中心であるがゆえに「なんでぼくの言うことを聞いてくれないだ」という思いをもつことがわかるように言葉同士を線で結ぶ。  ・ぼくだけが悪いとならないように、タクの伝え方にも注目させる。  ・ヨシキが悪いという意見にならないように、「自分本位とならないような行動」について考えさせる。  ・自分本位である「ぼく」が理解できるような言い方であるか、「ぼく」がそのような言い方ができるのかを確かめるために、ロールプレイをする。  意見がぶつかったときに、どんなことを心がけるとよいですか？  ◆意見が衝突したときに自分本位にならず、相手の意見を聞きながら解決しようとする気持ちが高まったかノートの記述や発言から判断する。 |